

阪神・淡路大震災30年 企画展

1995 ⇄ 2025 30年目のわたしたち

1995 ⇄ 2025 Our Lives Since January 17, 1995

会期：2024年12月21日(土)～2025年3月9日(日)

展覧会タイトルが決定しました！！

2024年2月29日に速報として開催をお知らせした現代作家によるグループ展「30年目の希望—19950117からのわたしたち（仮題）」展の正式タイトルが「1995 ⇄ 2025 30年目のわたしたち」展に決定しました。

1995年1月17日の震災では、兵庫県立美術館の前身である兵庫県立近代美術館（1970-2001）も建物や収蔵品に大きな被害を受けました。同館を引き継ぎ、2002年に震災復興の文化的シンボルとして開館した当館では、これまでも震災後の節目の年に関連展示を開催してきましたが、今回初めて特別展会場での自主企画展となります。

この30年の間に、アメリカ同時多発テロ（2001年）、東日本大震災（2011年）、ロシア軍によるウクライナ侵攻（2022年）、さらにイスラエルとハマスの武力衝突（2023年）、能登半島地震（2024年）と、世界は多くの自然災害や紛争に見舞われ、明るい未来を想像することはますます困難な状況となっています。そのような時代になお、語りうる希望とは――。

簡単には答えの出ないこの問いを、それでも、あるいはだからこそ考え続けるための、ひとつの場となることを目指し、本展を開催します。アーティストとその作品、何らかの出来事と、それを見るみなさんが展覧会という場につかま集うこと。言い換えれば、今それぞれに生きる「わたしたち」こそ「希望」の出発点にほかならない、そのような思いを展覧会名に込めています。

全出品作家を発表します！

このたび、展覧会に参加する6組7名のアーティストが決定しました。

◎すでに発表済の2作家

■東芋 Tabaimo

1975年兵庫県出身、長野県在住。手描きドローイングと日本の伝統的な木版画の色彩を思わせるアニメーションを用いたインスタレーション作品で知られ、現代日本社会に潜む問題をシュールでシニカルに表現する。2011年、第54回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展に日本代表として参加。2006年からは様々な舞台作品にも取り組み、国内外で上演を重ねる。2023年にはコペンハーゲンで大規模個展を開催。今年7月には寺田倉庫で新作「触れてなどいない」を発表した。秋にギャラリー小柳（東京）で個展予定。



《dolefullhouse》2007年 兵庫県立美術館蔵
©Tabaimo/Courtesy of Gallery Koyanagi

■米田知子 Yoneda Tomoko

1965年兵庫県明石市生まれ、ロンドン在住。20世紀のイデオロギーをテーマに、戦争や震災の傷跡が残る日本国内およびヨーロッパ、東欧、アジアなど幅広い地域における人々の記憶が強く残る場所を訪れ、徹底した対象へのリサーチを重ねながら制作を続ける。写真を通して土地やものに宿る歴史的な真実に迫り、詩的な感性をたたえた情景の背後に幾層にも重なる記憶を呼び起こす。



《震源地、淡路島》1995年
ゼラチンシルバープリント 国立国際美術館蔵
©Tomoko Yoneda/Courtesy of ShugoArts

◎今回、発表する5作家

■やなぎみわ Yanagi Miwa

1967年神戸市生まれ、京都府在住。美術作家、舞台演出家。1993年エレベーターガールをテーマにした作品で初個展、以後国内外で個展多数。2009年第53回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展の日本代表作家。2011年より演劇活動を開始し、近代美術の黎明期をテーマに美術館や劇場で公演、北米ツアーも果たす。2019年個展「神話機械」が美術館巡回。2021年台湾オペラ「アフロディーテ～阿婆蘭～」を作演出。2016年より台湾製の特殊車両による野外巡礼劇を続けており、神戸の兵庫津では海上公演を実現。以降、時宗の始祖、一遍上人の軌跡と芸能を研究するプロジェクトが発足している。



《「女神と男神が桃の木の下で別れる」川中島 II》2016年

■國府理 Kokufu Osamu

1970年京都府生まれ。乗り物の形態をモチーフに、実際に稼働する動力と機能を備えた大型の立体作品を制作・発表。様々な工業製品を素材に用いながら、必要な部材を自ら作り出し、ユニークな自動車やバイクを生み出す。その後、乗り物に植物や生態系を組み合わせ、「移動」と「循環」をテーマに自然と人間の営みについての寓話のような庭や温室型の作品によって創作スケールを拡大させるが、2014年、展示作品の点検中の事故により逝去。



「國府理 水中エンジン redux」（後期展）2017年
アートスペース虹の展示風景 撮影：Tomas Svab

■田村友一郎 Tamura Yuichiro

1977年富山県生まれ、京都府在住。既存のイメージやオブジェクトを起点にした作品を手掛ける。作品は、写真、映像、インスタレーション、パフォーマンス、舞台まで多彩なメディアを横断し、土地固有の歴史的テーマから身近な大衆的テーマまで幅広い着想源から、現実と虚構を交差させつつ多層的な物語を構築する。作品体系として、その多くがコミッションワークであり、近年では美術館のコレクションなども対象の事物として扱う。2024年秋、水戸芸術館で個展開催予定。



《試論：栄光と終末、もしくはその週末 / Week End》
2017年 インスタレーション

■森山未来 Moriyama Mirai*

1984年生まれ、兵庫県出身。5歳から様々なジャンルのダンスを学び、15歳で本格的に舞台デビュー。2013年文化庁文化交流使としてイスラエルに1年間滞在、ヨーロッパ諸国で活動。「関係値から立ち上がる身体的表現」を求め領域横断的に国内外で活動を展開。俳優として日本の映画賞を多数受賞。ダンサーとして第10回日本ダンスフォーラム賞受賞。東京2020オリンピック開会式ではオープニングソロパフォーマンスを担当。2022年神戸市にArtist in Residence KOBE(AiRK)を設立、運営に携わる。



■梅田哲也 Umeda Tetsuya*

1980年熊本県生まれ、大阪を拠点に活動。現地にあるモノや日常的な素材と、物理現象としての動力を活用したインスタレーションを制作する一方で、パフォーマンスでは、普段行き慣れない場所へ観客を招待するツアー作品や、劇場の機能にフォーカスした舞台作品、中心点を持たない合唱のプロジェクトなどを発表。先鋭的な音響のアーティストとしても知られる。2023年度にはワタリウム美術館で個展「wait this is my favorite part」を開催。同年、芸術選奨文部科学大臣新人賞、Tokyo Contemporary Art Awardを受賞。



「梅田哲也イン別府『O滞』」 撮影：天野祐子

* 森山と梅田はコラボレーションによる制作と発表を行います。

開催情報（予定）

展覧会名	阪神・淡路大震災30年 企画展「1995 ⇄ 2025 30年目のわたしたち」
会 期	2024年12月21日（土）～ 2025年3月9日（日）
開館時間	午前10時～午後6時（入場は閉館の30分前まで）
休 館 日	月曜日 [ただし1月13日（月・祝）と2月24日（月・振休）は開館、1月14日（火）と2月25日（火）は休館]、12月29日（日）～1月3日（金）
会 場	兵庫県立美術館 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1 [HAT神戸内]
主 催	兵庫県立美術館、神戸新聞社、朝日新聞社（予定）

[交通案内]

- ・阪神岩屋駅（兵庫県立美術館前）から徒歩約 8 分
 - ・JR 神戸線灘駅南口から徒歩約 10 分
 - ・阪急王子公園駅西口から徒歩約 20 分
 - ・JR三ノ宮駅南から神戸市バス（29、101 系統）にて約 15 分、「県立美術館前」下車すぐ
 - ・地下駐車場（乗用車 80 台収容・有料）
- ※ご来館はなるべく電車・バスをご利用ください。



< 近日開催の展覧会 >

コレクション展Ⅱ わたしのいる場所—コレクションから「女性」特集！
[小企画] 美術の中のかたち—手で見る造形 北川太郎 時のかたち

2024年8月20日（火）～ 12月8日（日）

特別展「石岡瑛子 I (アイ) デザイン」
2024年9月28日（土）～ 12月1日（日）

< 同時期開催の展覧会 >

コレクション展Ⅲ あれから30年—県美コレクションの半世紀
2025年1月7日（火）～ 4月6日（日）

< Ando Gallery >

入場無料（当館 2 階）



< 近日開催のイベント >

- コレクション展Ⅱ わたしのいる場所—コレクションから「女性」特集！ 「学芸員によるギャラリートーク」
日時：8月24日（土）、9月21日（土）各日11:00～11:30（受付開始15分前より）
定員：20名（当日先着順、要観覧券、受付場所：1階改札付近）
- コレクション展Ⅱ [小企画] 美術の中のかたち—手で見る造形 北川太郎 時のかたち 「アーティストトーク」
日時：8月25日（日）15:00～16:00
会場：展示室+レクチャールーム
定員：30名（当日先着順、要観覧券）
- HART TALK 館長といっしょ！ Vol.10
テーマ：「文化財保護について—当館所蔵・本多錦吉郎《羽衣天女》の重要文化財指定をきっかけに」
日時：9月7日（土）14:00～15:30 受付開始13:30～
会場：兵庫県立美術館 レクチャールーム+コレクション展示室
定員：80名（要観覧券）、先着順
講師：中野慎之氏（文化庁文化財調査官（絵画部門））
聞き手：林洋子（当館館長）
- 特別展「石岡瑛子 I (アイ) デザイン」 オープニングトーク 石岡瑛子—ここにいる—時代を超える「I」をめぐって—
出演：河尻亨一（編集者・銀河ライター／本展監修者）
永井裕明（アートディレクター／本展監修者）
日時：9月28日（土）14:00～15:30（開場13:30～）
会場：KOBELCOミュージアムホール
定員：150名（先着順、要観覧券、芸術の館友の会会員優先座席あり）
- コレクション展「無料」観覧日
公益財団法人伊藤文化財団の協賛により「無料」でご覧いただけます。
9月8日（日）第2日曜日、自由に話せる観覧日
9月16日（月・祝）敬老の日（※県内在住の70歳以上のみ）

「1995 ⇄ 2025 30年目のわたしたち」 広報画像申込書

ご希望画像にチェックを入れ、媒体情報をご記入の上、本紙を e-mail または FAX にてお送りください。
申込確認に数日かかる場合がございます。あらかじめご了承ください。

<input type="checkbox"/>  <p>参考：東茅《dolefullhouse》 2007年 兵庫県立美術館蔵 ©Tabaimo/Courtesy of Gallery Koyanagi</p>	<input type="checkbox"/>  <p>参考：田村友一郎《試論：栄光と終末、もしくはその週末 / Week End》2017年 インスタレーション</p>
<input type="checkbox"/>  <p>米田知子《震源地、淡路島》 1995年 国立国際美術館蔵 ©Tomoko Yoneda/Courtesy of ShugoArts</p>	<input type="checkbox"/>  <p>参考：梅田哲也「梅田哲也イン別府『O滞』」</p>
<input type="checkbox"/>  <p>参考：やなぎみわ《「女神と男神が桃の木の下で別れる」川中島 II》2016年</p>	<input type="checkbox"/>  <p>参考：梅田哲也「梅田哲也イン別府『O滞』」 撮影：天野祐子</p>
<input type="checkbox"/>  <p>参考：國府理「國府理 水中エンジン redux」 (後期展) 2017年 アートスペース虹の展示 風景 撮影：Tomas Svab</p>	

● 貴媒体の情報をご記入ください。

- 媒体名(番組・雑誌名等) _____
 ○媒体種：新聞・雑誌・ミニコミ・TV・ラジオ・WEB・その他() _____
 ○掲載・放送予定日： _____ ○参考 URL _____
 WEB 掲載の場合、いずれかに○をつけてください。： コピーガード対応 可・不可

● 申請者の情報をご記入ください。

- 貴社名： _____ ○ご担当者名 _____
 ○所在地： 〒 _____
 ○メールアドレス： _____ ○電話番号 _____

● 読者・視聴者プレゼント用招待券： _____ 組 _____ 名分を希望

※ (最大 5 組 10 名まで。本展を媒体でご紹介いただける場合に限りです)

【 画像使用に際しての注意事項 】

- 「作家名」「作品名」「制作年」「展覧会名」「所蔵先」「クレジット」などを明記してください。
 ○作品画像の加工(着色、トリミング、文字載せなど)はできません。
 ○基本情報、画像使用の確認のため、ゲラ・原稿の段階で「企画・広報担当」までお送りくださいますようお願いいたします。
 ○掲載媒体を 1~2 部、もしくは URL、同録(DVD、CD)を「企画・広報担当」宛にお送りください。
 ○画像使用は本展覧会の紹介用のみとさせていただきます

〈お問い合わせ〉

兵庫県立美術館 企画・広報担当(岩本・早栗・成松)
〒651-0073兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1
TEL : 078-262-0905 FAX : 078-262-0903 Mail : press@artm.pref.hyogo.jp